



診療室外での予防活動 —フッ化物の応用を中心として—

小児歯科柏木医院（福岡市） 柏木伸一郎

略 歴

1971年4月 九州歯科大学入学
1977年3月 同 大学卒業
1978年4月 九州大学小児歯科専修生
1978年5月 福岡市天神に「小児歯科柏木医院」開業
2004年11月 福岡市渡辺通（BiVi福岡）に移転開業現在に至る

はじめに

今から約40年前に、父は九州で初めて小児歯科専門として、福岡市天神に開業しました。私自身は小児歯科になろうという強い意思があった訳ではないのですが、卒業後は自然の成り行きで父の医院を継ぎ、小児歯科医として現在に至っています。しかし、今までを振り返ってみると、小児歯科医としての自分の考えに影響を受けたことが幾つかあります。

影響を受けたこと

- 1) 私の開業当時は、齲蝕の洪水の時代で治療に明け暮れていました。しかしそんな中でも、九大の中田教授にリコールの重要性を教えられ、治療終了後は必ずリコールを実施したこと。このことが、現在予防中心の診療体制となり、小児歯科医としての「やりがい」にも繋がっています。
- 2) 福岡予防歯科研究会（現NPO法人ウェルビーイング）に出会い、診療室だけではなく、地域での予防活動の重要性に気づいたこと。具体的には、幼稚園・保育園でのフッ化物洗口を中心とした集団対象の齲蝕予防活動。各地域で歯科保健条例が制定されたことにより、今までは停滞気味だった園や学校でのフッ化物洗口が推進されています。
- 3) 福岡市歯科医師会の公衆衛生委員会で、12年間市民対象の啓発活動など行なってきました。アンケート調査の結果、「定期管理を希望している人が半数以上いるのに、歯科医院がその受け皿になっていない。」という歯科医院と市民との意識のギャップが浮き彫りになりました。治療中心の歯科医院ではなく、定期健康管理を希望する人も受け入れる歯科医院が求められていることが分かりました。

私が伝えたいこと

活動の機会があれば、診療室の外に積極的に出てみてください。園医・校医・歯科医師会・保健所などでの予防活動や啓発活動を行なうことで、デンタルIQの向上に繋がると共に歯科の地位向上にもなると思います。ミラーと白衣を捨てて、地域に出よう！